

草の根通信

Vol.73 (2013年2月5日発行)

出雲大社

P12 ジョン万次郎の「本」



P12 協賛企業一覧

平成23年度寄附協賛企業一覧

次回のサミット大会は
島根県で2013/7/2-7/8に開催!



Shimane Grassroots Summit 2013



P10

第2回万次郎忌報告

寄稿 北代淳一



P08

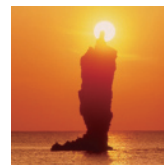
ジョン・ハウランド号の『航海日誌』世に出る『前編』

寄稿 川澄哲夫



P07

ノース・テキサス大会企業ボランティア体験記



P04

地域分科会／キーパーソン紹介

松江市・安来市・出雲市・出雲市平田地区・雲南市
奥出雲町・大田市・江津市・浜田市・益田市・隠岐郡



P03

知事ご挨拶

大会スケジュール

オープニングは出雲大社で!

クロージングは「松江イングリッシュ・ガーデン」で!

特集

着々と進む準備状況を報告します
第23回しまね大会



いつも新しい空を目指して。

ANA

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金) www.ana.co.jp

特集 第23回しまね大会

知事ご挨拶



島根県知事
溝口 善兵衛

第23回日米草の根交流サミット大会を島根県にお迎えできることを嬉しく思います。

60年に一度の大改修を終え、縁結びの神社として日本で最も有名な出雲大社でのオープニングから、江戸時代の文化が色濃く残る松江でのクロージングまで、島根の魅力をたっぷり感じて下さい。

ジョン万次郎とホイットフィールド船長、また子孫に受け継がれた友情が島根県でもさらに広がり、参加者の皆さま同士が新たな縁で結ばれることを期待しています。

大会スケジュール

7/1(月)	参加者・米国出発
7/2(火)	参加者・成田/羽田経由で島根到着 ＜ホテル一畑泊＞
7/3(水)	ローカルツアー オープニング・セレモニーと歓迎レセプション ＜ホテル一畑、ツインリーブスホテル出雲泊＞
7/4(木)	地域分科会(ホームステイ・プログラム)へ出発 ＜ホームステイ＞
7/5(金) ～7/6(土)	地域分科会(ホームステイ・プログラム) ＜ホームステイ＞
7/7(日)	ホームステイ地域から松江イングリッシュガーデンへ移動。 クロージング・セレモニー ＜玉造グランドホテル長生閣、玉井別館泊＞
7/8(月)	羽田/成田経由で米国へ帰国、 またはオプション・プログラム参加

オープニングは出雲大社で!

しまね大会の皮切りとなるオープニング式典は、60年に一度の「大遷宮(だいせんぐう)」が行われている出雲大社の仮拝殿にて開催いたします。

大遷宮とは、60年ぶりの大社本殿の屋根の葺替え修造にともない、本殿に祭られている大国主大神(おおくにぬしのおおかみ)を仮本殿にお移したり、その後、修造を終えた本殿にご神体をお戻ししたりすることを言います。平成20年4月に、ご神体を仮本殿にお移して以来、参拝も仮拝殿にて行われてきていますが、サミット大会は、この修造が終了し、ご神体が本殿にお還りになる「本殿遷座祭」(5月10日)を終えた7月の開催です。その頃には、仮拝殿もその役目を終えていますので、出雲大社の皆様の特別なおはからいで、ここを特別にお借りしてオープニング式典を開催することとなりました。



クロージングは「松江イングリッシュ・ガーデン」で!



大会の最後を飾るクロージング式典は、宍道湖の湖畔に広がる広さ1万㎡の松江イングリッシュ・ガーデンで開催されます。

英国の伝統的な庭園様式を採用して造られており、イギリス人のガーデナーにより維持管理されています。季節ごとに咲く500種類の草花や木々が訪れた人々の心をなごませます。大会の時期は、バラ、カサブランカ、クレマチス、スイレンなどが咲き誇っているはず。アメリカからの参加者達とホストファミリーは、ここで再会を願いながらのお別れとなります。

地域分科会

Local Session

しまね大会 「キーパーソン紹介」

昨年12月のクリスマス時期から、しまね大会の参加者募集が米国で始まりまして。パンフレット(英語)はとても素敵なデザインにできあがり、パンフレットを受け取ったアメリカの方々からは「島根は魅力的だね」というお声をいただいています。しかし、なんといっても参加を検討する方々が興味を持つのは3泊4日の地域分科会や、それをコーディネートして下さるキーパーソン(ボランティア)の皆様のごことです。地域分科会とキーパーソンのご紹介は、パンフレットでは英訳して掲載していますが、ここでは日本語原文でご紹介します。



1 松江市(まつえ)

雪吹(ゆぶき)重之さん、池田俊貴さん、高橋真理子さん

松江のキーパーソンの3人組です。地域の国際交流活動をおこなっています。これからの新しい出会いにワクワクしています。皆さんとの交流を通じて、素敵な時間を過ごせることをとても楽しみにしています。

松江市は、島根県の県庁所在地です。日本国内で7番目の広さを誇る夕日の名所として有名な宍道湖に面し、大橋川や堀川に囲まれた「水の都」です。松江城・武家屋敷など歴史深い建造物や四季折々の表情を持つ宍道湖が、古き日本を感じさせる神秘的な雰囲気を醸し出します。参加者の方には、こうした松江の街並みと文化を思いきり楽しんでいただけるプログラムを用意してお待ちしています。



2 安来市(やすぎ)

仲佐伸夫さん

安来節のどじょうすくい

普段はオーストラリアの子ども達との交流を行っています。今回初めて新しい地域の人々と私達の地域で交流できることを楽しみにしています。



安来市は古来鉄にまつわる産業を通して発展してきた町です。良質な砂鉄を産出し、それを原料としてすばらしい刀剣が製造され、その積み出し港として北前船の寄港地でもありました。それにまつわる民謡「安来節」は日本全国でもよく知られています。こうした文化豊かな街で皆さんに会えるのを心よりお待ちしております。



特集 第23回しまね大会 (地域分科会 キーパーソン紹介)

3 出雲市(いずも)

柳楽(なぎら)正雄さん

県職員時代は貿易振興と国際交流に従事しました。青年海外派遣事業で中近東諸国を親善訪問して以来、市民レベルの国際交流活動を推進し、姉妹都市の米国サンタクララ市とブータン王国との友好交流活動に取り組んでいます。

出雲は、神代の壮大な出雲神話とゆかしい伝統文化が、色濃く残る神秘的な田園都市です。特に出雲大社は日本最古の歴史書、古事記に登場する出雲独特の建築様式の荘厳な神殿があり、ご祭神の大国主命は縁結びの神様として日本全国の人々に崇め親しまれています。出雲の人々は現代的な生活を営みながら出雲神話を語り、古くから伝わる茶道や華道をたしなみながら陶器や木工品などの伝統工芸品を愛用し、心豊かに過ごしています。出雲を訪れるみなさまは、必ずや、出雲の風物と出雲神話の虜になってしまうでしょう。皆さんを出雲の神様とともにお待ちしております。

出雲大社



豪農の庭園



Key Person



4 出雲市・平田地区(ひらた)

加藤昇さん

私は書店経営の傍ら地元のケーブルテレビの経営にも参加しています。息子の家族が隣接の別棟に住み、孫娘が2人います。毎年6月にはミネアポリスのサウスウエスト高校生を数名受け入れています。

17万人あまりの人口を有する出雲市北部にある平田は、開基1100年になる一畑薬師、200年余り続く陶器一式で飾り付けをする民俗芸術の一式飾り(天神まつり:7月20日~22日)、古い家並みが続く木綿街道、七夕仮装船が繰り出す七夕まつりなど古(いにしえ)を感じる街であり、また田園風景豊かな田舎町です。皆さんの来訪を歓迎し、日本酒の酒蔵見学、お酒の利き酒。日本古来の筆を駆使して習字を体験し、日本庭園が広がる畳の間でゆっくり抹茶をいただきながら、しばし癒しの空間を味わっていただきます。

一畑薬師



木綿街道



Key Person



5 雲南市(うなん)

坪内邦至(つぼうちくにゆき)さん

高校教員を退職後、県警察学校で一般教養科目の授業を担当しています。雲南市国際文化交流協会設立に携わり、現在は会長です。今夏、中高校生をインディアナ州のリッチモンド市へ派遣し、同行した私も多くの出会いと感動を味わいました。

雲南市内には、ヤマタノオロチの伝説で知られる斐伊川(ひいかわ)が流れ、各地に神話や伝説が残り、加茂岩倉遺跡(かもいわくらいせき)などの多くの遺跡や古墳が発掘されています。また季節によっては、トロッコ列車に乗って新緑から紅葉まで中国山地の雄大な景色を満喫することができます。800本の桜のトンネルを楽しめたり、ゲンジボタルの乱舞を鑑賞したりすることもできます。自然と歴史に彩られた「日本のふるさと」、それが雲南市です。市民も穏やかな人ばかりで、アメリカからの友人の来訪を心待ちにしております。どうか雲南市で穏やかな時をお過ごしください。

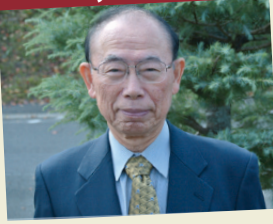
トロッコ列車



酒蔵資料館



Key Person



6 奥出雲町(おくいずも)

藤原弘道さん

奥出雲町は中山間地域にありながら、国際交流活動に積極的で毎年20名~30名ほどシカゴの高校生のロングステイを受け入れています。

出雲神話発祥の地である奥出雲町のお米は東の「魚沼」、西の「仁多米」といわれるほどとても美味しく、奥出雲の清らかな水と仁多米により作り出された地酒、和牛、そば、しいたけ、まいたけなど、大自然を感じさせる食があふれています。「日本三大美肌の湯」とされている斐乃上温泉はアルカリ性で、美肌や血行促進、疲労回復にいとされる良質です。奥出雲へのお越しをお待ちしております。

仁井田米



亀嵩温泉



Key Person



7 大田市(おおだ)

高橋泰子さん

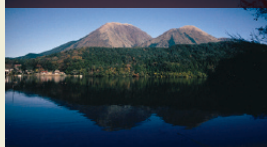
緑と水の連絡会議の理事長です。私たちは里山や草原の環境を保全する活動や世界遺産石見銀山で森林景観整備の活動をしています。国際ワークキャンプは今年で12回目となり、事務所では外国人青年をボランティア研修として年間を通じて受け入れています。

大田市は、誰もが住みよい自然と歴史と人が光り輝く町です。東西46kmの海岸線を持つ日本海沿岸の平たん部から、海拔1,126mの国立公園・三瓶山(さんべさん)を主峰とする連山に囲まれた農村景観が残っています。夏は海水浴や魚釣り、ハイキング、登山、自然観察、キャンプが至るところでできます。また、自然環境と共生した鉱山遺跡として世界文化遺産に登録された石見銀山遺跡や石見神楽、盆踊りをはじめとした民俗芸能などさまざまな歴史文化を大切にしています。

琴ヶ浜



三瓶山と浮布の池



Key Person



特集 第23回しまね大会 (地域分科会 キーパーソン紹介)

8 江津市(ごうつ)

山崎一成さん

コロナ会会長をしています。カリフォルニア州コロナ市と1989年から交流を行い、2004年には姉妹都市協定を結びました。これまでに多くの市民がホームステイや交換学生事業を通して交流を図っています。

今回も参加されるみなさんと江津市の人々が交流し、貴重な体験ができることを楽しみにしています。江津市は島根県の中部にある、海・山・川に面した、自然の豊かな町です。江津市が誇れるのは自然だけではなく、大切に受け継がれている迫力満点の石見神楽。福の有る里とも言われる、有福温泉。豊かな自然環境と生産者のたっぶりの愛情で育った美味しい食材。

参加者のみなさんには、こうした江津の魅力をたっぷりと感じられる体験をしてもらいたいと考えています。自然の溢れる町でみなさんのお越しをお待ちしています。



9 浜田市(はまだ)

檀山(はげやま)陽介さん

浜田国際交流協会理事長です。協会は2013年に20周年を迎えます。記念すべき節目の年に、未来に続く交流が図られるよう本大会に積極的に関わり協力いたします。美しい自然の中で心身を癒し、美味しい食べ物を堪能し、浜田市を存分に満喫していただきたいと思っております。

浜田市は、日本中に誇れる海、山など美しい自然に囲まれております。海水浴場、温泉、スキー場、水族館など豊かな自然を活かした観光資源を有し、古来から伝わる石見神楽などの伝統文化や地域と連携した大学、世界の子どもたちをテーマにした美術館をはじめとする教育文化施設や、漁港や商港などが特色で、人と文化と自然の調和のとれた島根県西部の中核都市です。また、日本海で獲れる海の幸、豊かな風土で育った新鮮な山の幸、美味しいお水にお酒など、美味の逸品をお楽しみいただけます。浜田でしか味わえない感動をお楽しみください。



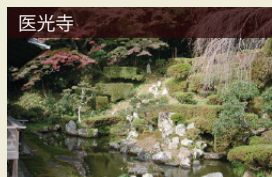
10 益田市(ますだ)

青戸俊恵さん、澁谷(しづたに)善明さん

青戸です(写真左)。ノース・テキサス大会でホスピタリティー溢れる歓迎を受けとても嬉しかったです。皆さんと益田で会える事を楽しみにしています。

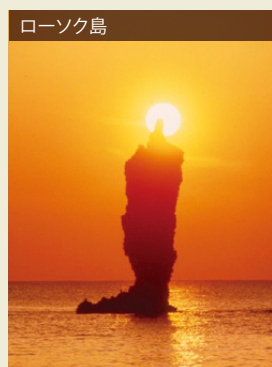
教職を退職して4年目になる澁谷です(写真右)。小さな農園で野菜と果樹を作っています。趣味は読書、ツーリング、異文化体験等で、海外旅行をしたり、外国からのホームステイを引き受けたりしています。

益田市は県西部に位置する人口約5万人の市です。益田に来られたら、美味しい刺身やメロンなどをぜひ召し上がって下さい。また夏はダイナミックな神楽が毎晩上演され、小さな子どもから大人まで楽しんでます。益田市は歴史的に有名な詩人柿本人麿や水墨画家雪舟のゆかりの地でもあり、柿本神社や雪舟庭園のある医光寺があります。そういう場所や茶道などの日本文化体験を通して昔の日本の時を感じてみませんか。元気あふれる私達が、皆さんのお越しをお待ちしています。



11 隠岐郡(おき)

野辺一寛さん



ロサンゼルスの日系4世グループとは、バスケットボールを通じた交流事業を行っています。今回、新たな地域の人々と交流できることをとても楽しみにしています。

隠岐は日本列島の西側に浮かぶ離島です。4つの有人島と180の無人島から形成される隠岐諸島は、美しい海岸線の風景と興味深い奇岩などもあり、豊かな自然環境が残されています。大会参加者の方には、こうした自然環境や隠岐の文化を楽しんでいただくために、シーカヤックによるツアー、盆踊りなどを計画しています。



現在、隠岐はユネスコが支援を行う世界ジオパークネットワークの認定を目指しています。世界的にも珍しい自然環境が残る隠岐で皆さんをお待ちしています。



ノース・テキサス大会 企業ボランティア体験記

昨年8月末から9月初めにかけて開催された日米交流サミット ノース・テキサス大会では、協賛企業の社員の方々にもボランティアとしてご活躍いただきました。ここでは、三菱商事の立石さんとトヨタ自動車の寺川さんから寄せられた体験記をご紹介します。

体験記その1

子供たちと過ごした8日間

三菱商事株式会社 立石亮さん

今回の「日米草の根交流サミット」にはボランティアとして参加させて頂き、岩手県釜石市の子供たちと8日間を過ごしました。初日、空港に着いた子供たちは長旅ですがにお疲れの様子でしたが、やはり滅多にない海外の機会に興奮を隠しきれないようで、サングラスをかけた体格の良い現地の方を見て、「ガイジンだ!」と大はしゃぎする始末。「ガイジン」はどちらなのやら…と苦笑しながらスタートした8日間でしたが、終わってみれば、自分自身にとっても企業人として滅多にできない貴重な体験となりました。

日本の子供たちは概して内気だと評されることが多いですが、きっかけさえあれば積極的な姿勢にすぐ変わるもので、ホストファミリーの方にはなかなか英語を使わなかった(使えなかった?)子供たちも、パーティーにご招待して下さいました別のご家庭の小学生のお子さんとは積極的にコミュニケーションを図っていました。現地の高校生とキャッチボールをしたこと、広大な農場でBBQをしたこと、スーパーに売られる肉や野菜の大きさと値段に驚いたこと。濃密な8日間を通して1人の子がぼろっとこぼした「アメリカに住みたい」というつぶやきが、とても印象に残っています。この草の根交流が単発のイベントで終わることなく、子供たちのその後の人生に何らかの形でつながってほしい、そして私たちボランティアがそのつなぎ役になればそれほど素晴らしいことはない、と強く思います。



立石さん



後列左から2番目が立石さん

体験記その2

新しい価値観との出会い

トヨタ自動車株式会社 寺川昌平さん

私は協賛企業からボランティアとして参加し、被災地から招待された石巻リトルシニアの少年達に全日程同行させて頂きました。この経験を通じ二つのことを強く感じました。

一つ目に、本大会は草の根レベルでの日米相互理解を着実に促進しているということです。少年達は海外経験が少なく、当初は戸惑いもあったと思います。しかし、ホームステイ等の各種イベントを通じて、現地の少年達と友情を育み、今後の継続した交流を約束していました。米国の方々にとっても、少年達との交流を通じて、被災地に思いを馳せ、ひいては日本に関心を持つ良い機会になったと思います。この様な個々の新しい信頼関係が積み重なり、良好な日米関係が醸成されていくのではないかと思います。草の根の活動を発展させていくためにも、企業として出来るサポートを継続していくことは、大変意義があると感じました。

二つ目に、本大会は私自身の成長に繋がる場でもあったということです。まず、上述した草の根交流の意義を現地現物で体感出来たことは、またとない勉強になりました。更に、善意溢れるボランティアの方々と数多くお話す機会があり、今までの自分になかった新しい価値観を感じる事が出来ました。これも私自身の財産になったと感じています。

最後に、本大会を通じて出会えた方々に深く感謝申し上げます。私もこの新たな出会いを大切にさせていただきます。有り難うございました。



引率中の寺川さん



ボランティア業務打合せ中の寺川さん

ジョン・ハウランド号の『航海日誌』世に出る [前編]

川澄哲夫

(CIE評議員、文学博士・元慶応義塾大学教授、ニューベッドフォード捕鯨博物館・学術顧問)



この『ライマン・ホームズの航海日誌』は、2001(平成13)年2月、神田の古書展(小川図書出品)で、小沢一郎氏が入手し、永く刊行が待たれていた書である。原典は現在、財団法人ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センターが管理している。

この書の1841年6月28日の項には、日本人救助の様子が鮮明に描かれている。文面から救助作業は27、28日両日に及んだものと考えられる。

Monday 28th (June)

At 1PM sent 2 Boats ashore for Turtle

at 3 they returned on Board with 5 Chinese or Japanese that had been wrecked there they swam off to the Boats they talked nothing we could understand only by signs they had clothes and Boxes ashore We saw the wreck of one if not 2 Chinese Junks made arrangements to carry them to the Sandwich Islands. sent a Boat ashore and got some clothing for them saw several Boxes One 40 gall Cask by the remains of their Craft supposed to be 10 or 15 tons

6月28日(月)

午後1時、2隻のボートを下ろし、岸辺に海亀を探しに行く。

3時にボートは戻ってきた。5人の中国人か日本人を連れて帰った。難船して、この島に漂着したというこ

とどった。彼らは、泳いでボートに乗り移ってきた。何もしゃべらない。お互いに、身振り手振りしか、相手の言うことが理解できない。海岸に衣類と数個の箱を残してきたと言っているようだ。

海岸に1隻(2隻ではないだろう)、難破した中国風ジャンクの残骸があった。彼らをサンドウィッチ(ハワイ)諸島へ連れて行くように手配する。1隻のボートを島にやって、彼らの衣類をとってきた。数個の箱と40ガロン入りの樽が1つ、難破船の残骸の傍に置いてあった。船は10トンか15トンくらいだろう。



航海日誌の原本

この航海日誌は、ライマン・ホームズというgreen hand(新参水夫)が、3年6ヶ月と7日にわたって克明に記した記録である。彼の英語は正確そのもの。雨にも負けず風にも負けず、鯨を追いかけた日も、解体作業に疲れ果てた夜も、日記を書き続けている。鯨に頭突きをくわされ、ボートを木々端微塵に打ちくだかれ、海に放り出されたことまで日記に書き留めている。ホームズが乗り組んだのは18才。ほぼ大学4年間を捕鯨船上で過ごしたことになる。

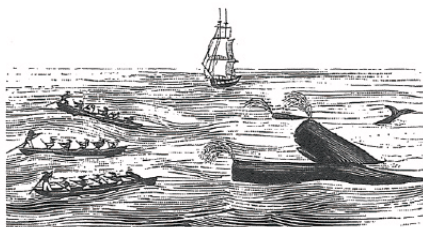
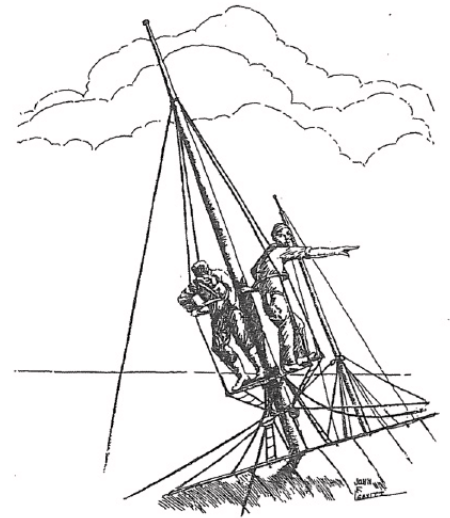
万次郎を救った捕鯨船の記録

ジョン・ハウランド号は、1839年10月31日、ニューベッドフォードを出帆して、太平洋・日本漁場へ向かった。乗組員は船長ホイットフィールド以下28名、ライマン・ホームズ(Lyman Holmes)はgreen handの一人としてこの航海に加わっていた。

ライマン・ホームズの航海日誌は、11月26日ベルデ岬諸島が見えるところから始まる。おそらくホームズは、鯨捕りとしての最初の航海なので、船酔いを克服したり、無数にある捕鯨船上の仕事に馴れないため、日誌をつける余裕がなかったのであろう。

このあと、ジョン・ハウランド号は、南西に進路をとり、ブラジル沖、フォークランド諸島の沖合を過ぎ、やがてホーン岬を周って太平洋に出た。ホーン岬は、南米を迂回して太平洋に抜ける航路中最大の難所である。

太平洋に入ったジョン・ハウランド号は、南米の西海岸に沿って、マッコウクジラを追いかけながら北上する。4月24日、ペルーのカヤオ港に錨を下ろした。そこから西北に進路をとり、遠海漁場(Off-shore Grounds)へ向かった。そうしてマーケサス諸島、ソシエテ諸島近海、さらにニュージーランド沖まで南下してマッコウクジラを追いかけた。



そのあと太平洋の中心に出てナビゲーター(サモア)諸島、キングズミル(ギルバート)諸島沖で、それぞれの季節に合わせてマッコウクジラを追いかけた。それからカロリン群島中のアセンション(ポナペ)島に立ち寄り、薪水・食料を補給した。そのあと、ジョン・ハウランド号は、ラドローン(マリアナ)諸島の最先端にあるウラッカス島に向け進路をとり、1841年5月6日にボニンズ(小笠原群島)を望見できる位置に達した。アメリカの捕鯨船は、 Guam島に20日ほど滞在して、ゆっくりと薪水食料を補給し、日本漁場でのマッコウクジラシーズンに備えるのが普通である。ところが、ジョン・ハウランド号は、Guam島に立ち寄りしないで日本漁場へ直行したのである。そうして6月27日、Deniso(筆之丞)、Mongo(万次郎)、Jusica(重助)、Trimo(寅右衛門)、Guimo(五右衛門)の救助となった。

ジョン・ハウランド号は、漂流民を乗せたまま、嬬婦岩と鳥島を中心にマッコウクジラを追い続ける。日本漁場での捕鯨シーズンは5月から9月末まで、まだ始まったばかりである。

1841年7月7日、無人島を離れて10日目に、ジョン・ハウランド号は、2頭のマッコウクジラを仕留めた。

9月10日になって、ジョン・ハウランド号は、進路を東南にとった。10月11日、北緯30度、東経169度の地点で、雄のマッコウクジラ2頭を捕った。今シーズンの日本漁場での収穫は全部で28頭、1千バレルのマッコウ油がとれた。

1841年11月22日、ジョン・ハウランド号は、ウワホー(Oahu)と申す島のハロナロ(Honolulu)へ入港した。日本ではその前日の11月23日(天保12年10月11日)、渡辺崋山が自刃して果てた(時差を考えれば同じ日)。モリソン号事件の余波である。

「ハロナロ」湾には、チャールズ・ウィルクス大尉率いる太平洋探検隊の4隻の軍艦が目を惹いた。この艦隊は3日前の17日に入港していた。彼らの目的のひとつは、太平洋海域の風、潮流、各地の風習などを調査して、アメリカの鯨捕りたちが安全に操業できるように協力することであった。

11月26日、ウィルクス大尉らは土佐の漂流民と出会う。「日本人は背が低く、知性に欠けている。彼らは多分下層階級の漁師であろう」という印象を受けた。画家アガテは日本人の一人をデッサンした。絵の主は万次郎か。



第2回万次郎忌 報告

第二回万次郎忌に集う — 各地から30数人

CIE評議員 北代淳二

『オリオンの三つ星ありてジョン万忌』

東京・雑司ヶ谷霊園にある万次郎の墓石には、万次郎が生前中濱家の家紋として選んだオリオンの三つ星が刻まれています。

2012年11月11日の日曜日。この墓前に一回目の万次郎忌を倍する30数人の人たちが集まりました。万次郎の命日は11月12日ですが、月曜日になったため、二回目は一日繰り上げられました。

実に多彩な顔ぶれでした。まず万次郎の直系5代目の中濱さんと中村文さんの姉妹。遙か沖縄から大城光盛会長以下「沖縄ジョン万次郎会」のメンバーが10数人。中には万次郎が帰国して琉球に上陸した時、6ヶ月も世話になった高安家の5代目の子孫高安亀平さんとその子息の高安英明・はるみ夫妻の顔も見えました。

高知の「土佐ジョン万会」からは日帰り参加の内田泰史会長と建築家の大原泰輔さん。万次郎の故郷の土佐清水市から「ウェルカム・ジョン万の会」の田中裕美会長も遠路を駆けつけました。また山形から、熱心な地域文化活動を続けている菅原文雄さん。そしてCIE評議員の平田潔さん、事務局長の轟木洋子さんと前事務局長の森信之さんも。

幹事役の「ジョン万次郎・江東の会」の落合静男会長らの挨拶のあと、高安亀平さんが泡盛の古酒と沖縄名物のサーターアンダギーを墓前に供え、その泡盛でみんなで献杯。代わる代わる墓前に手を合わせました。

中濱京さんの話では、亡くなったお父さんの博さんはこの万次郎の墓地を、万次郎から力をもらう「パワースポット」と呼んでいたとのことでした。

赤道の上で冬の夜空にひととき明るく輝くオリオン座の三つ星。その光を見つめながら数々の困難を乗り越えて行った海の男万次郎。そのパワーを、集ったみんなで共有したひとときでした。

墓前の集いのあと、第一回万次郎忌の時と同じように、雑司ヶ谷から電車を乗り継いで浅草まで移動しました。行き先は万次郎が勝海舟とよく通ったという老舗の「うなぎ・やっこ」です。

みんなで鰻重をいただきながら、一人ずつ自己紹介をし、それぞれの活動報告や万次郎についての思いを語り合っ、時間の経つのを忘れました。

第三回万次郎忌は2013年11月10日(日)の予定です。

『鰻重や尽きせぬ思いジョン万忌』



全員での集合写真



万次郎5代目姉妹



泡盛とサーターアンダギー



うなぎ「やっこ」にて昼食



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事

ジョン万次郎の「本」



ライマン・ホームズの航海日誌

川澄哲夫 解説・和訳 / 慶応義塾大学出版会 (CIE価格13,500円)

本号8～9ページの「ジョン・ハウランド号の『航海日誌』世に出る(前編)」をご参照ください。鳥島に流されていた万次郎一行を救ったアメリカの捕鯨船「ジョン・ハウランド号」の水夫、ライマン・ホームズが書いた航海日誌です。川澄哲夫CIE評議員が約170年前の日誌を解説・和訳し、この度「慶応義塾大学出版会」から翻訳されて刊行されました。万次郎らの救助についても鮮明に記録されています。CIE用の注文チラシを使って申し込むと割引価格で購入できます。



ジョン・マン 波濤編、大洋編、望郷編

山本一力著 / 講談社(それぞれ1,600円+税)

直木賞作家、山本一力さんによる歴史大河小説。「小説現代」に連載中の本作品ですが、波濤編、大洋編、望郷編は単行本になりました。作者が高知出身なので、土佐弁、幡多弁にもリアリティが。フェアヘイブンの空気や人の息遣いも、読む人の肌や耳に迫り、ホイットフィールド船長が雨にぬれた坂路を昇る姿が目につかびます。万次郎や船長など、歴史上の人物達が息を吹き返し、語りかけてくるようです。全5巻までの出版が待ちきれません。



ジョン万次郎 海を渡ったサムライ魂

マーギー・プロイス著、金原瑞人訳 / 集英社 (1,800円+税)

草の根通信70号にご寄稿いただいたマーギー・プロイスさんの「ハート・オブ・ア・サムライ」が翻訳され、昨年集英社から刊行されました。アメリカでは、児童文学としてもっとも権威あるニューベリー賞、そしてオナー賞を受賞した作品です。少年万次郎が初々しく、そして生き生きと輝いて描かれています。異国の地で、困難に遭いながらも賢く路を切り開いて行く万次郎に感動します。小学校高学年から大人まで、わくわくしながら一気に読み進むことができます。

平成23年度協賛企業一覧

NTTコミュニケーションズ株式会社 / キヤノン株式会社 / 全日本空輸株式会社 / 株式会社大庄 / トヨタ自動車株式会社 / 三井住友海上火災保険株式会社 / 三菱商事株式会社 / 三菱食品株式会社 / アイシン精機株式会社 / 愛知製鋼株式会社 / 曙ブレーキ工業株式会社 / アサヒグループホールディングス株式会社 / イオン株式会社 / キッコーマン株式会社 / キリンホールディングス株式会社 / コカ・コーラセントラル ジャパン株式会社 / 株式会社ジェイテクト / 中部電力株式会社 / 株式会社デンソー / 東京海上日動火災保険株式会社 / 豊田合成株式会社 / 株式会社豊田自動織機 / 豊田通商株式会社 / トヨタファイナンシャルサービス株式会社 / トヨタ紡織株式会社 / 株式会社永谷園 / 株式会社ニフコ / 日本郵船株式会社 / 日本ユニシス株式会社 / パナソニック株式会社 / 日野自動車株式会社 / ブラザー工業株式会社 / 株式会社ブリヂストン / 明治安田生命保険相互会社 / 矢崎総業株式会社